



同窓会報



同窓会創立60周年記念式典



60周年記念祝賀会幕開け。女性部会による舞踊「かじゃでい風節」



祝賀会最後の「カチャーシー」



祝賀会団欒



式典に参加の皆さん

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年は沖縄大学同窓会にとって節目の年となりました。創立60周年の記念式典と懇親会には、若い同窓会メンバーも多く参加するなか、大学関係者並びに現役学生も参加し、会場いっぱい世代間の交流の輪が広がっている様子を、感無量の思いで見えました。皆様のおかげで支えとご協力で改めて心より感謝申し上げます。

沖繩大学同窓会が大学とともに60年にわたり歩んできた道のりは、決して平坦ではありませんでした。多くの困難とともに、一つひとつの挑戦を乗り越えてきたからこそ、今の沖縄大学があり、私たち同窓生がこうして集い、繋がり合えています。同窓会がプラッ

会長 棚原勝也



2025年同窓会会長新年のあいさつ

沖繩大学の歴史もまた、沖繩戦を抜きには語れません。戦後の復興期から教育を立ち上げ、脈々と今に繋いできた先人の思いを、我々は決して忘れてはなりません。ドイツのリヒャルト・ヴァイツゼッカー元大統領の、「罪の有無、老幼いづれを問わず、我々全員が過去を引き受けねばならない。誰もが過去からの帰結に関わり合っており、過

去に対する責任を負わされている。過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも盲目となる。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすい」という、未来に遺した「伝言」に、私たちは心しなければなりません。

今年には沖繩戦から80年という歴史を迎えます。「ありつただけの地獄を集めた」と表現されたほど、一般住民を巻き込んだ悲惨な戦争は、人々の夢や、家族、友人の絆を、命とともに奪い去りました。80年の時が流れ、街並みは姿を変えても、その傷跡は人々の記憶に深く刻まれ、語り継がれています。

新しい年を迎え、私たち同窓会も、時代と次代を見つめ、地域や、後輩たちのために何ができるのかを大学と共に考えてまいります。引き続き皆様のご協力とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。この1年が、皆様にとって素晴らしいものとなりますようお祈り申し上げます。

今、世界を見渡すと、ウクライナや、ガザ地区での戦争など、いまだ為政者は、過去を顧みることがなく、不幸にも国民はその政治の犠牲になっていきます。遠い国の平和を願ひ、実現するためには、私たちの足元を常に見つめることだと思ひます。

去に対する責任を負わされている。過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも盲目となる。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすい」という、未来に遺した「伝言」に、私たちは心しなければなりません。



関東支部長 仲宗根政則

新年明けましておめでとうございます。昨年の関東支部の行事は、7月の支部総会・懇親会と、12月に新企画として大学就職支援課と連携して関東に就職された2022〜2024年の卒業生と、就職支援課職員との交流会・懇親会を開催しました。

毎回、同窓会本部からもご支援をいただきながら、若し新規会員の参加も増えた。改めて、母校での繋がりと、素敵なメンバーに出会えたことに感謝します。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



関東支部の皆さん

関西支部長 清村 齊

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、同窓会本部・同窓生の皆さまの温かいご支援とご協力により、当支部の活動を無事に進められたこと、心より感謝申し上げます。

2025年は、支部活動をさらに充実させ、同窓生同士の絆をより一層深めていくことを目指してまいります。

新年最初の活動として、新同窓生を迎え、ミニ関西ツアー・新年会を予定しています。更なる交流を期待しています。

同窓生の皆さまお一人おひとりのつながりが、私たちの支部を支える大きな力となっています。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



関西支部の皆さん

久米島支部長 宇江城 久人

明けましておめでとうございます。

新たな1年が皆様にとつて希望あふれる1年となりますようお祈り申し上げます。

昨年は沖縄大学同窓会60周年記念式典、祝賀会を無事終えられ感謝申し上げます。

久米島支部も設立12年、計画的な支部活動を行いながら、久米島の強みである同世代の父母会とのつながりを強化し、在校生との意見交換や久米島高校から沖縄大学への進学の手伝いなどをを行い、関わりのある全ての人が幸せになれるよう活動してまいります。これからも久米島支部をよろしくお願いいたします。



久米島支部の皆さん

宮古支部長 下地 信広

新年あけましておめでとうございます。巳年は力を蓄えていたものが芽を出す起点の年、再生と誕生を意味する年と言われています。

沖縄大学同窓会宮古支部としても同窓会のネットワークの拡充を図りながら左記の事業を推進してまいります。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

- ① 定期総会、親睦グラウンドゴルフ、ゴルフ大会
- ② 役員会（随時）
- ③ 沖縄大学同窓会定期総会
- ④ 沖縄大学父母会交流会
- ⑤ 冠奨学金の依頼
- ⑥ 沖縄大学推薦枠依頼
- ⑦ 同窓会忘年会、新年会
- ⑧ 卒業式、入学式参加
- ⑨ その他沖縄大学関連行事に関する協力など



宮古支部の皆さん

八重山支部長 鳩間 真英

明けましておめでとうございます。新年を迎え皆様とともに新たな気持ちで出発を期したいと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひします。昨年は同窓会60周年記念行事に粉骨砕身、尽力なされた役員の皆様にご敬意を表します。

柵原会長や同窓会役員の音頭で年末に八重山支部で初めて青年部を立ち上げることができ活気づいており、これからの支部の継続、発展が楽しみです。

支部活動は例年どおり、グラウンド・ゴルフをメインに会員の親睦を深めていきます。皆様の提言とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶いたします。



八重山支部の皆さん

女性部会長 飯田 明美

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年11月9日に同窓会創立60周年記念式典・祝賀会を盛大、無事に終える事ができ、お礼申し上げます。

第3ミレニアムへ入り、四半世紀が過ぎようとしています。沖縄大学は県都那覇市にある唯一の私立大学である、その誇りを持ち「地域共創・未来共創」を意識して同窓会並びに沖縄大学の発展を願っています。

東京の短大卒業後、社会参加し、60代に新たに学び直しができたことは感謝に堪えません。多様性の時代に女性部会の活動の在り方も考えたいです。本年もよろしく願いいたします。



女性部会による正月用生け花

青年部会長 島袋 裕

新年あけましておめでとうございます。今年も同窓生の皆様のご健勝を、青年部会一同、心よりお祈り申し上げます。青年部会は若い世代の同窓生の交流を目的に活動しています。年末は同窓会活動を周知するため、現役学生との交流会を主催しました。



青年会によるバーベキュー

九州や全国大会で活躍された硬式野球部および軟式野球部の皆様、またスタディーツアーに応募し海外での経験を得た学生達を招いて忘年会を開催し、現役学生と同窓生を合わせ30名による有意義な時間を共有。卒業間近の学生諸氏へ同窓会の活動を知っていた、機会にもなりました。青年部会は今年も功績のあった学生を応援してまいります。

八重山支部青年部長 大瀨 用四郎

12月7日に石垣市内の飲食店で八重山沖大同窓会青年部の忘年会を行いました。波照間島在の阿利正則さんによる司会進行でスタート。今回は石垣在で地域おこし協力隊の新見弘基さんが初参加しました。話題が現沖大キャンパスのことになると、当時のキャンパスやサークルのことなどを思い返しつつ、終始賑やかな雰囲気でした。



八重山支部青年部のメンバーたち

また、今回の発足に伴い、鳩間真英支部長や棚原勝也会長、青年部発足の立役者である石原昌英さんからの心強い応援メッセージも頂きました。八重山沖大同窓会青年部は始動したばかりで、青年部同士の繋がりはまだ薄いですが、まずは八重山

支部の先輩方や青年部のネットワーク構築に向けてゆつくりと、そして「緩くつながる、長くつながる」をモットーに活動できたらと考えております。

沖縄大学支援同志会



会長 新垣 淑典

新年明けましておめでとうございます。

2025年新しい年が始まりました。我々「沖縄大学支援同志会」は同窓生を主体としてスタートし、以降、学外の個人・法人の皆様さんからも多くのご支援を頂き運営されてきています。それらを原資にして2024年も離島出身学生への支援を行なっており、本年も少しでも多くの協力を得て、様々な形で支援を行なって参りますので、同窓会の皆様にも支援活動への賛意とともども協力をお願いいたします。

変革の年へ



学校法人沖縄大学

理事長 佐喜真 實

明けましておめでとうございます。同窓会の皆様におかれましては、清々しい巳年の新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。本学同窓会は、本年から新しい節目を刻むべく、さらに結束力を高めて活動を推進されていること存じます。巳年は復活、再生の年と言われるように、大きく脱皮する機会かと思えます。また新たな装いで、更なる飛躍の年とされますことを祈念しております。

県内の大学進学率が向上している中で、本学は高校生が目指す魅力ある大学、そして時代に相応しい高等教育機関となるよう全力で改革に邁進しているところです。また本年四月からは改正私立学校法が施行され、理事会、評議員会の役割、権限も大きく変わります。

学校法人経営の公正さがさらに確立され、公器としての大学運営に理事長、学長が連帯して取り組む体制が整います。本年は、さなぎから蝶へ変態するような、メタモルフォーゼの改革を成し遂げ、大きく羽ばたく年にしたいと思えます。本学は同窓会から常に高い関心を持ってもらえる誇りある大学運営を目指しております。引き続きのご支援をお願い申し上げます。同窓会の今後ますますのご発展を祈り、新年のご挨拶といたします。

新年の挨拶



学校法人沖縄大学

学長 山代 寛

新年あけましておめでとうございます。

昨今、人工知能やIoTに代表される技術革新、少子高齢化、環境問題など、私たちは目まぐるしく変化する時代を生きています。このような変化の激しい社

会において、大学の役割はますます重要となっており、単なる知識の習得ではなく、課題を発見し、創造的に解決する能力、そして多様な価値観を受け入れる柔軟な姿勢を持つ人材の育成が求められています。

本学は「地域共創・未来共創の大学」として、これらの社会的課題に果敢に挑戦し、地域に貢献できる人材育成に全力を尽くします。同窓会の皆様の豊富な経験と知見は、まさに本学の教育研究活動に新たな視点と深みをもたらす、かけがえのない財産です。同窓生の皆様の活躍こそが、沖縄大学の真の価値を社会に示し、本学の名を高らしめる沖縄大学の誇りであり、本学の未来を照らす光なのです。

今年も、「沖縄大学論」をはじめとする講義や、学生と卒業生との交流、地域課題解決のための共同プロジェクトなどを通じて、同窓会の皆様との絆をさらに深めてまいります。

結びに、同窓会の皆様のご健勝を心より祈念いたします。本年もどうぞよろしく申し上げます。

仲里後援会会長



会長 仲里武思

あげましておめでとう
ございます。

昨年は、沖縄大学同窓
会が創立60周年を迎えた節
目の年でした。歴代の役員
や多くの関係者のご尽力に
より繋いできた歴史の重み
を感じる事ができ、後援
会として、また私自身も一
人の同窓生として感謝の念
と多幸感を持って一年でし
た。

地域に根差した大学と
して多くの人材を輩出し沖
縄の発展に貢献してきたこ
とは大学当局による時代変
化への適切な対応があった
ことは言を俟ちませんが、
同窓会が果たした役割も大

きかつたと思います。これ
から新しいステージへ向け
てその歩みを進めていくこ
とになりますが、足元の同
窓会活動活性化の勢いを肌
で感じているのは私だけで
はないでしょう。

事務局はじめ関係者の
皆さんの熱い思いからくる
活動で沖縄県内のみならず
関東・関西支部での広がり
をみるにつけ、ここ数年で
変化が一気に押し寄せてき
た感覚があります。

同窓会が元気であるこ
とは即ち現役学生の学ぶ環
境や福祉の向上にも直結す
ることなので、この流れを
止めることなく進んでいく
ことを期待しています。会
員皆様の一致結束した活動
で同窓会の更なる発展に結
びつくよう連携していけれ
ばと思います。よりよい
日々を過ごせるよう今年も
よろしく願います。

同窓会学生支援

硬式野球部

沖縄大学野球部助監督
比嘉良彰

日本一パラオ外交関係

樹立30周年記念事業の一環

第1回パラオ
国際アマチュア
野球大会派遣費

で、昨年6月13〜18日に開
催された「第1回パラオ国
際アマチュア野球大会」へ
の招待を受け、県内の社会



派遣費の贈呈

人と大学生で構成される沖
縄代表選手団に、社会人よ
り11名、大学生より10名が
選出されました。本学野球
部より、仲宗根滉大(経法
商学科4年)と、知念新(健
康スポーツ福祉専攻3年)、
スタッフとして助監督の比
嘉が派遣団員として選出さ
れました。

第1回大会の参加国は、
パラオ(3チーム)、台湾、
韓国(2チーム)、 Guam、
日本(沖縄)の5か国で、
合計8チームが参加しまし
た。

初日の対戦相手はパラ
オ高校生選抜チームでした。
大学生主体のメンバードで挑
んだところ、初回に先制さ
れましたが、沖縄代表は毎
回得点を重ね、結果17対3
の圧勝でした。

2日目は、Guam代表
と対戦し、社会人中心メン
バードで挑んだ結果、6・0



パラオ大会に参加の選手たち

の完封リレーで、これもま
た圧勝でした。3日目、台
湾代表と対戦し、1日目で
2日目で結果を残した選手
を起用した結果、12対0で
完勝しました。最終日の決
勝戦は、地元パラオ代表
チームと対戦し、完全ア
ウエーの中で試合でした
が、結果は、5対1で勝利
し見事初代チャンピオンに
輝きました。

野球の大会だけではな
く、現地のこどもたちへの
野球教室や戦跡巡りなどを
しました。

これから厳しい冬季練
習が始まりますが、来春の
九州大会出場を目指して、
チーム一丸練習に励み、日
ごろ支えてくれている関係
者の皆様に結果という形で
恩返しできればと思います。



第47回全日本大会に参加の沖大チーム

沖縄大学軟式野球部
監督 玉城 祥梧

2024年度の沖縄県
大学軟式野球リーグ戦では、
秋季リーグ戦で初の全勝優
勝を果たしました。大阪府
で開催された第47回全日本
大学軟式野球選手権大会で
は、1回戦で全国3連覇の
実績をもつ白鷗大学に2対
6で敗退しました。3年連
続の全日本選手権大会出場
は、軟式野球部にとって貴
重な経験であり、多くを学
ぶ機会となりました。来年
は全国制覇を目標に頑張り
たいと思います。

また、第26回全日本大
学軟式野球国際親善大会
(TAIWAN)では、本学
3年生の國吉翔太が投手と

軟式野球部 全日本出場

日本代表野球大会
派遣費

して日本代表に選出され、
5試合に登板し、主に抑え
投手として活躍しました。
現地の子供たちを対象に野
球教室を開催し、野球の楽
しさを伝えてきました。國
吉にとつてもとても貴重な
経験となったと思います。

軟式野球部の来年度の
目標として、「Thinking
Enjoy Baseball」を考え
楽しむ野球」を実践し全
国制覇を目指します。



國吉選手



棚原会長から派遣費の贈呈を受ける國吉選手

奨学生近況報告

地域経営専攻 赤嶺 充

沖繩大学大学院現代沖繩研究科 「沖繩県の都市在住男性高齢者の活動・参加プログラムニーズについて」をテーマに、修士論文の研究を進めています。全国的な課題として、介護予防事業への男性高齢者の参加率の低さが指摘されています。この現状を踏まえ、男性高齢者が望む活動や参加プログラムへの在り方を、明らかにすることを目指しています。 研究の一環として、先日、指導教員の名城健二教授とともに先進的な介護予防の取り組みを行っている大阪府堺市を訪問しました。そこで得られた知見は、沖縄県の地域特性に合わせて応用できるのではと考えています。



大阪府堺市役所にて事業の説明を受ける私 2024年11月1日

水球部

現在はインタビュー調査で得られたデータの分析を進めており、男性高齢者にとって魅力的な「居場所・通いの場」のあり方について考察を深めています。

新キャプテンの宮城朝音 (国際コミュニケーション学科2年) 日本学生選手権水泳競技大会九州地区予選(水球競技)で優勝し、第100回日本学生選手権水泳競技大会(水球競技)に出場しました。

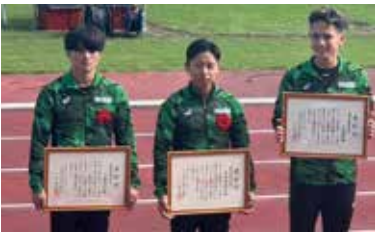


水球部の皆さん

陸上競技部

ました。全国一勝の壁の高さを痛感しました。 現在のチームは1、2年生主体の新チームで、メンバーの仲の良さが特徴です。練習後にはチームで食事をしながらミーティングを行い、課題の共有と改善に努めています。また多くの課題がありますが、これからの練習で改善し、新進気鋭のチームとして注目され応援されるチームとなるよう頑張ります。

陸上競技部監督 山内昌也 日頃より本学陸上競技部へサポートをいただき、大変感謝申し上げます。以下、主な結果を報告します。 ・第77回西日本学生陸上競技対校選手権大会(博多の森陸上競技場/7



左から、古謝開仁、長浜瑠希斗、赤嶺羽の各氏

月)男子100m 10秒47 座間味凜玖(本学陸上競技部の歴代記録を更新)。

・第79回九州陸上競技選手権大会兼第109回日本陸上競技選手権大会予選(タピックひやごんスタジアム/8月) 男子4×100m R予選チームベスト40秒89を記録、決勝において沖縄大学として初の優勝(古謝開仁、長濱瑠希斗、赤嶺翔、伊波颯)。

・第52回九州学生陸上競技選手権大会(久留米総合スポーツセンター/9月)女子3000m障害優勝 平賀麗奈11分07秒50で大会記録を更新。 ・第78回国民スポーツ大会(SAGA2024/10月)へ沖縄県代表として出場 男子4×100m R座間味凜玖、女子4×100m R上地愛花、長嶺涼風 今年も日本インカレへの出場を第一目標に部員一同、日々の練習に励んでいます。

大学祭実行委員会 助成金贈呈

同窓会は、昨年10月9日、第65回沖大祭の実行委員会に助成金を贈りました。贈呈式には9人の学生と学生支援課職員が参加しました。前回の第64回大学祭4年ぶりの対面開催を経験した学生たちが実行委員会の中心メンバーです。

実行委員長の東山陽花さんは「楽しい学園祭にしたい」と、笑顔いっぱい話していました。大学祭は11月2・3の両日、盛会に開催され、琉球舞踊で幕開け、大学祭実行委員も歌・三線、東山陽花実行委員長も踊りを披露し舞台を盛り上げました。



大学祭実行委員会へ助成金を贈呈

商学研究クラブ OB懇親会

昨年12月28日那覇市内で商学研究クラブOB会の忘年会が開催されました。会は鹿児島在住の崎正志さんの帰沖に合わせて行われたものです。学生時代の思い出を語り合いながら旧交を温め、楽しいひとときを過ごすことができました。

同窓会からは奥間邑明事務局長が出席しました。



商学研究クラブのOBの皆さん

2024年度沖繩大学同窓会奨学生募集

期間は、2025年2月28日(金)まで 応募資格等は、沖繩大学HP内、同窓会HPでご確認ください。

同窓会長 棚原勝也

「沖繩大学同窓会創立60周年記念式典」および「祝賀会」を昨年12月9日(土)、盛会に執り行いました(式典は本館H102教室、祝賀会は同窓会館)。

「創立60周年」は我が同窓会の知覚那覇市長が来賓として挨拶下さいました。また、山代寛沖繩大学学長は「地域に根差す」という「建学の精神」を表現する姿であり、「深く敬意を表する」との言葉を贈って下さいました。

式典では謝花美佐子、玉城舞瑠子、仲村昌和、屋比久里美の4氏に感謝状を贈りました。

「祝賀会」は沖繩大学の現役やOBに、その友人たち10名あまりで構成された「吹奏楽部」による、素晴らしい演奏で幕を開けました。

続く幕開けの「かじやでい風」では、同窓会女性部会、飯田明美さん、上田真弓副会長、東太田和子さん、徳浜絵里奈さんの4人がびたりと息の合った4カ月の練習成果を見事に披露しました。

会場も温まったところで、佐喜真理事長が挨拶。理事長は「地域に貢献できる人材」が多く輩出され続けており、今後も大学と同窓会が互いの発展のために協働での取り組みを期待されました。

沖繩大学後援会を代表して、同窓の仲里武思会長は、高らかに乾杯の音頭をとりました。

金城フサ子舞踊道場の踊りに魅了されるかと思えば、関東支部、関西支部、久米島支部、宮古支部、八重山支部の皆さんが壇上に上がって、笑いとともに、今後の同窓会の広がりを感じさせる挨拶や、現役大学生も数多く登場し、若さと気概と情熱と、エネルギーが溢れる時間があったと言う間に過ぎていきました。

さらに祝賀会では、式典同様、これまで同窓会活動に尽力下さった同窓の先輩方への「感謝状」の贈呈式を行い、親川盛一様、仲村盛彦様、中村信孝様、屋良幸助様、長嶺千枝様へ、感謝の賞状と記念品が贈られました。

吹奏楽部副顧問 外間京香

本学吹奏楽部は部員数が10名と少なく、他大学と合同で出演する機会が多いのですが、今回は同窓会のイベントということで沖大生だけの出演を決めました。少人数での演奏は緊張感がありましたが、皆さまの温かい雰囲気の中で楽しく演奏することができ、大変良い経験をさせていたいただきました。



吹奏楽部の皆さん

女性部会 飯田明美

女性部会は60周年祝賀会の幕開け「かじやでい風」を4人で踊りました。11面写真参照

琉球舞踊教師の東太田和子さん提案で、稽古は昨年7月から仕事も終わった後月4回行いました。

東太田さんの舞踊指導

で女性部会初舞台「祝賀会幕開け」は大成功でした。出演前の髪結い、化粧、琉装着付けなど大変でしたが、東太田さんが所属する「松含流(しょうがんにゅう)」の新城美佐代琉舞研究所」のサポートがありました。



左から東太田和子、飯田明美、徳浜恵里菜、上田真由美の各氏

現音OB 赤松雅幸

昨年は同窓会創立60周年記念式典に沖繩大学現代音楽クラブOBとして我々、同窓会創立とほぼ同年代の60歳を中心にお声がけ下さ



現音OBの皆さん

感謝いたします。

私は関西在住で、一昨年に設立の同窓会関西支部設立の勢いと、個人的に沖繩本島での仕事をする機会に恵まれ、リハーサルをこなして本番に臨みました。楽しい交流のひとつを満喫でき、良き思い出と共に今後の糧になりました。未来永劫の発展存続を祈念いたします。

法経学部経済学科

経営学コース 92年卒業 金城秀美やいびーん

はいたい!! 司会でお世話になりました。普段、イベント司会業を中心に行っている関係で、瞬時に会場の雰囲気を感じとるのは得意なのですが、やはりその日は会場全体が温かく、特に出席者の皆さん方のステージへの眼差し



司会の私、金城(左)と清村さん

は、同窓生という同じ立場での気持ちからの、他のコミュニティでは味わえない、やさしい面持ちの方々でいっぱいでした。

関西支部長 清村 斉

私自身、関西支部長として参加する事は決まっておりました。まさか、祝賀会の最後に唄・三線で出演させてもらうとは思ってなく、大変誇りであり喜びでした。

私の演目は、宮古島の「トーガニあやぐ」に始まり、「六調節」「クイチャー」「カチャーシー」と、最後は在学生も入り混じり大いに盛り上がりました!

これからも、関西から同窓会の一員として協力してまいります!



金城フサ子舞踊研究所による舞踊「松竹梅」

関東地区就職者と懇親会開催

関東支部長 仲宗根 政則

東京・神田で昨年12月7日(土)に大学就職課との連携で、関東で就職をされた2022〜24年卒業生と就職支援課職員との久しぶりの再会を兼ねた、交流会及び関東支部会員との懇親会を開催しました。

初参加の2022〜24年卒業生が6名、就職支援課の大城課長・上江洲主事の2名、同窓会本部の棚原会長・奥間事務局長・小幡評議員の3名、関西支部の神田副支部長、そして関東支部18名の合計30名です。

これまで就職課とは、過去に在校生の就職支援の交流会行事の連携開催をしたことがありますが、卒業生向けの行事は初めてです。就職課が把握している関東エリアへ就職する卒業生は毎年約30〜40名います



関東支部の皆さん

が、就職後に関東支部との接点を持てていせんでした。そこで、就職支援課との連携企画が実現しました。今回の主目的は、初参加の若い6名への関東支部活動内容や、就職支援課から沖縄県外に就職された卒業生の就職先の共有化や活動報告、そして参加者相互の交流が目的です。

今回の企画を通じて、参加の6名の世代は、在学中はコロナによる外出制限により、交流がなく関東に就職した卒業生同士のネットワークがないこともわかり、同窓会を通じて同世代はもろろんのこと幅広い世代が繋がったことは大きな成果と言えます。全員の自己紹介では、それぞれの職業の紹介があり、卒業生が様々なところで活躍しており、沖縄大学が多彩な人材輩出が確認できました。今回のように同窓会が大学と共に卒業後の多彩な人材を繋げるプラットフォームとなり、その活躍を「見える化」することで、在校生との距離も縮め、大学自体のブランド価値も高めることと思います。

引き続き、関東支部は新しい取り組みにチャレンジしてまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

福祉文化学科国家試験

社会福祉士・精神保健福祉士

福祉文化学科社会福祉専攻主催の「社会福祉士」「精神保健福祉士」合格者及び受験生(現4年次)へ激励会「先輩から後輩へエール」が、昨年8月10日に開催され、同窓会から「国家試験合格者への祝金贈呈」が行われました。今年度の合格者は24人、うち8人は「社会福祉士」「精神保健福祉士」の国家試験に合格しています。

合格者から、後輩へ「受験に対する心構えや勉強方法」が丁寧にアドバイスされるなど、先輩後輩がつながる仕組みの心温まる集まりになりました。棚原会長



合格者の皆さん

は、毎年優秀な逸材を社会に送り出されている福祉文化学科教授陣にお礼を述べました。がる仕組みの心温まる集まりになりました。

大学祭

第65回沖大祭実行委員会

実行委員長 東山 陽花

(福祉文化学科2年)

「エンジョイ、ハロウィン、沖大祭」のテーマのもと、11月2日(土)と3日(日)の2日間にわたり、第65回沖大祭を開催いたしました。来場者数は2日間で2061名となり、昨年の沖大祭(1810名)を上回りました。特にビンゴ大会では、子どもから年配の方まで幅広い年代の方々に楽しんでいただきました。

出店数も昨年より増え、実行委員会企画のゲーム大会や出店団体ランキングコンテストも盛況でした。ステージでは現音や吹奏楽部の演奏、ダンス部のダンスなど多くの演目が行われ、1日目にはM



目にはM

棚原会長は、毎年優秀な逸材を社会に送り出されている福祉文化学科教授陣にお礼を述べました。

Cのキンピラゴボウ、アーティストのきいやま商店、2日目にはMCのありんくりん、アーティストのANTAにも協力いただき、祭りの最後は為又青年会のエイサーが披露され、会場全体が大盛り上がりしました。来場者や出演者・出店団体の方から「楽しかった」という多くの声をいただき、沖大祭を開催できたことに心から満足し、同時に達成感を深く感じました。

沖大祭を開催するに当たり、沖縄大学同窓会をはじめ、沖縄大学、沖縄大学後援会、ゲスト出演者の方々、ステージ・出演団体、関係する企業の皆様を支えられ成功したものだと思っております。



ります。ご支援頂いた方々に深く感謝申し上げます。次年度の沖大祭も楽しみにお待ちしております。ちください。

福祉文化学科ホームカミングデイ案内

今年度は福祉文化学科開設25周年。その間卒業生は2千名を超え、県内外の社会福祉現場はもろろんのこと、さまざまな分野で活躍しています。そんな沖大福祉スピリットを引き継ぐ仲間が一堂に集い、これまでの絆を確かめ合い、新たなつながりを育む場として、初めてのホームカミングデーを企画しました。

5年前、20周年の時に企画したものの新型コロナ感染拡大で開催を断念した経緯があり、そのリベンジでもあります。なお、同窓会は、その思いに賛同し、本企画を資金面からも応援しています。3月1日に沖縄大学で堅い握手を。



人物シリーズ
活躍する
同窓生 ⑳

この人物シリーズは、同窓生の社会的活動を紹介するとともに、同窓生同士のネットワークを広げることと、在学生へのメッセージを通して沖縄大学との絆を深めたいとの趣旨で企画されました。今回は徳島県出身の照屋なつさんを紹介いたします。

照屋 なつさん

1990年3月卒
経済学科卒



◆現在のお仕事は

那覇市第一牧志公設市場で照光精肉店を営んでいます。

◆沖縄大学入学のきっかけは？

父が沖縄復帰運動に深くかかわっており、家中に

沖縄の本が置かれていました。そのため沖縄にとっても興味がありました。

(编者注・本学図書館内の寺前文庫の寄贈者は、ご尊父の寺前学さんです。寺前さんは徳島県総評センター事務局長で、1993年5月3日、大学は寺前さんの図書寄贈に対して感謝状を贈呈しました。なつさんが代理で出席しました。大学広報56号参照)

◆在学中の思い出は？

沖縄文化協会というサークルで活動していました。楽しかったですね。沖縄文化協会は、「沖縄のことならなんでも知ってみよう」というサークルでした。沖縄の先輩、本土出身の先輩にいろいろな所に連れて



沖縄文化協会で城跡めぐり

行ってもらいました。沖縄の城跡巡り、戦跡巡り、米軍基地巡り、沖縄県の大学祭巡り、観光地の調査など、沖縄本島内を連れて行ってもらいました。

◆大学時代と今で、沖縄の印象は変わりましたか

かなり変わりました。沖縄の家庭に嫁いだことで、表面ではわからないことたくさんありました。沖縄のイメージは、最初は沖縄戦から入りました。反基地・反戦など本土人としての浅い知識でした。ですが、沖縄の嫁として入ってから、義父義母から戦時中の生々しい話を教えてもらい、とても驚いた記憶があります。また、嫁いではたはただに沖縄に住んでいた学生時代の4年間ではわからないような、沖縄の家庭に嫁がないと分からないようなこともわかりました。例えば、沖縄は旧暦で物事が動いていることなどです。

◆大学時代の学びで今に生きていることは

とにかく楽しい4年間でした。たくさん友達もでき、卒業して30年以上になりますが、いまだ

に店を訪ねて来てくれる方もいます。サークル中に調べた事が、役に立つこともあります。

◆なぜ、今のお仕事に？

同じサークルだった主人と結婚したためです。主人の家が公設市場の肉屋さんでした。

◆お仕事の苦勞や喜びは

難しかったのは方言、生活習慣の違い、年中行事の違い、喜びは、お客様からいろんなことを教えていただける事です。

嫁いですが、方言はなかなか聞き取れなく、もちろんしゃべることもできなかったの、お年寄りの方から「あなたは方言もしゃべれないヤマトんちゆだから、あんたからは品物買わ

ないよ」と怒られたこともありました。とても悔しくて、市場にいるおじさんおばさんたちから少しずつ教えてもらい、今ではほとんど聞き取れるようになりました。ただ話すのはまだ難しいですね。

公設市場は相対売りですので、お客さんとお話ししながら、料理の方法を教えてくださいたいたり、教えていただいた料理法を別のお客様に教えたり、とにかくユンタクが大切です。

◆在学生へのメッセージを

私たちが学生の頃は校舎も古く、サークル等もプレハブでしたが、今はどこもきれいな建物になり、設備も整っているようで羨ましいです。大学時代の友人



照光商店前で。なつさん



那覇マラソンに参加

は一生の友となる人が多く(私もそうです)大切にしてください。今でしか出来ないことを精いっぱい楽しみながら頑張ってください。ペーパーヤマトも一人前のうちな嫁になれるよう頑張ってます。

編集後記

「活躍する同窓生」欄へのご投稿お待ちしております。分りやすい紙面づくり、ネットワークづくりが編集方針です。

広報委員会委員長
下地将生